

《小学生の部》
佳作（警察庁交通局長賞）

愛媛県松山市立石井北小学校
6年 柳瀬 新奈

失敗から学ぶ防げる事故

小学生の移動手段といえば、ほとんどが自転車です。私も、おばあちゃんが誕生日にプレゼントしてくれた自転車で、友達と遊びに行ったり習い事へ行ったりしています。

そんなある日、当時五年生だった私は、急いで家に帰ろうとしました。右側を走行して、交差点でスピードを落とさないまま右折しました。曲がった先には一時停止している車がいて、私はブレーキをかけることができずに、あっ！と思った時にはもうぶつかっていました。運転手のおじいさんはとても優しく、けがはないか、自転車は壊れていないか、何度も聞いてくれました。車には傷が付いていました。「どうしよう。やってしまった。」と、私は涙が止まらなくなって、とても怖かったです。おじいさんは自宅まで着いて来てくれて、母と話をしてくれました。お別れしてからも、電話で心配してくれていました。

私の失敗は、左側通行をしなかったことと、カーブミラーを見たり一時停止をしたり、安全を確認しなかったことです。全てできていないといけないことだけど、どれか一つでも守れていれば、事故は起きなかつたと思います。今は、これらに気を付けて運転しています。

それでもう一つ、良くなかったのは自信を持っていたことです。低学年の時より上手に運転ができるようになって、行動のはんぱも広がりました。何でもできるような、お姉さんになったような気持ちがありました。よく「慣れた時に失敗する」という言葉があるように、油断していたなと思います。慎重に、少し疑うような気持ちで運転した方が良いです。「車が飛び出して来るかもしれない」や「歩行者が急に渡って来るかもしれない」というような、かもしれない運転を心がけて、自分自身に対しても同じように、無理のない運転を選択しなければいけません。急なブレーキをかけずにすむように、スピードを出し過ぎないようにしたり、信号が点めつしていたら、次の信号を待つようにしたり、対策すれば危険は少なくなります。

交通事故はたくさん原因で起きています。子どもの飛び出しや、高齢者の操作ミスはとても多いです。自分の油断で、だれかを犯罪者にしてしまうかもしれないし、自分の失敗でだれかを殺してしまうかもしれません。それがハンドルをにぎる責任です。

私はその時の事故で死ななかったから、これから的人生で気を付けることができます。

運転技術も上がりしました。でも、気を付けることは変わりません。何歳になっても、車やバイクに乗るようになっても、初心を忘れずに無事故無違反を目指します。